



(1) 沼田市のあらまし

沼田市は、東京から約125kmの群馬県北部に位置し、赤城山や武尊山など日本百名山に挙げられる山々に四方を囲まれています。東西に長く、標高は250mから2,000m級の山岳まで較差があり、山岳・森林・高原・段丘・湖沼・河川・溪谷など、変化に富んだ自然環境を有しています。

市街地は、市域を南北に貫流する利根川とその支流の片品川・薄根川により形成された日本有数の河岸段丘上に広がっています。

本市の総面積は443.46km²と広大で、群馬県の約7%を占め、全体の約80%が森林となっています。気候は比較的降水量の少ない夏冬・昼夜の寒暖の差の大きい内陸型気候と日本海型気候の境界域となっています。

このような地勢は、地域における産業や生活面などに様々な特色を生み出していますが、「玉原高原」や国指定文化財「吹割の滝」など、スケールの大きい自然環境は、豊富な温泉群やリゾート施設等と相まって、我が国でも有数の観光地としての資質を有しています。

古くは、天文元年(1532年)に沼田氏が居城して以来、明治に至る300有余年の間、真田・本多・黒田・土岐氏の城下町として栄えました。明治以後、北毛の交通の要衝として、また、利根沼田圏域の商業の中心として開け、大正13年(1924年)の上越線の開通とともに、農林産物の集散地として一層の発展を見ました。戦後は、森林資源を背景に木材関係の工場が多くなり、次第に産業の基盤を整えてきました。昭和29年(1954年)4月、沼田町を中心に利南村、池田村、薄根村、川田村の1町4カ村が合併して市制が施行され、平成16年(2004年)に市制施行50周年を迎え、平成17年(2005年)2月13日には利根郡白沢村、同郡利根村と合併し、現在に至っています。



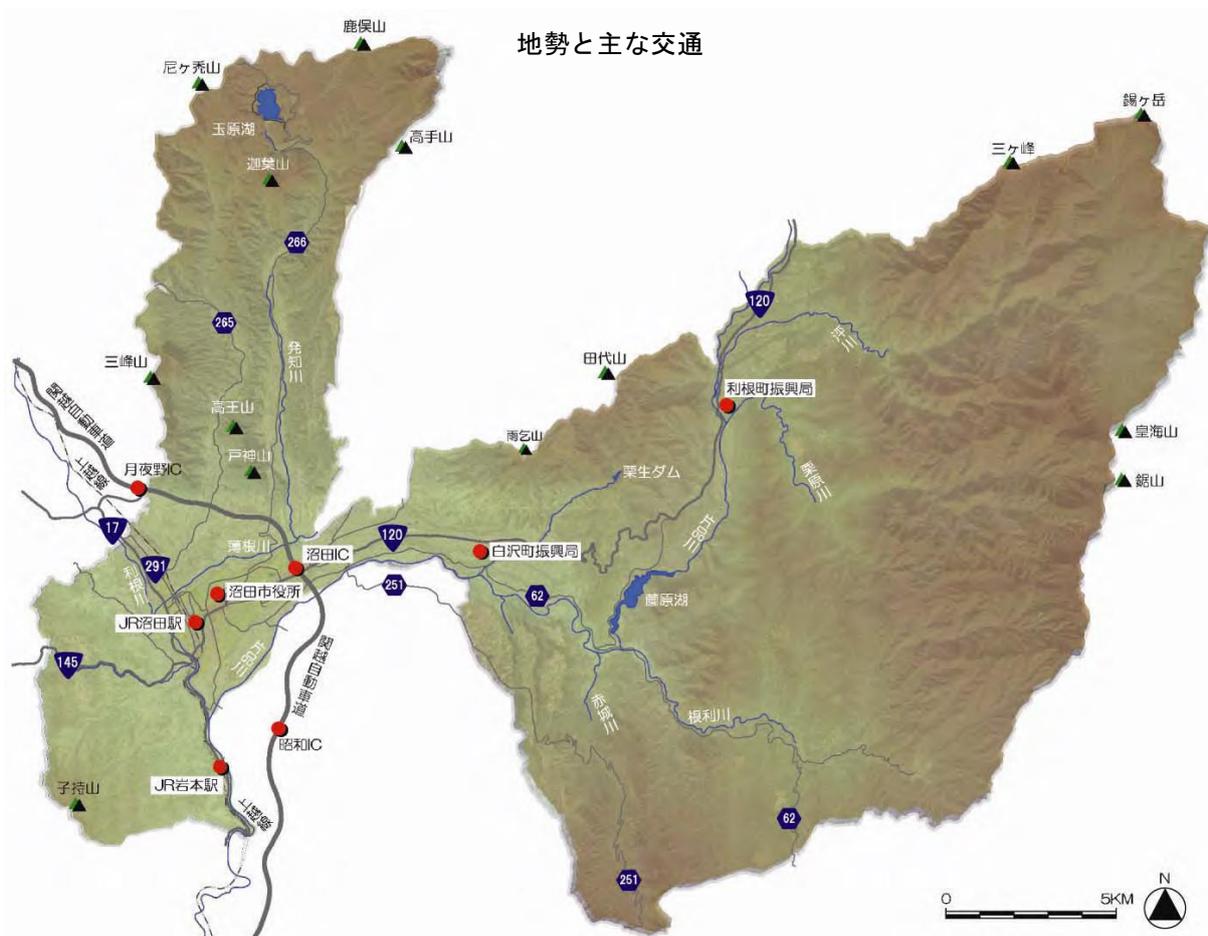
望郷ラインから望む風景

(交通)

沼田市は、上越線と国道17号によって東京と結びついているほか、JR上毛高原駅に近接し、市内には関越自動車道・沼田インターチェンジ（以下IC）を擁しているなど、交通の要衝となっています。

新幹線では東京から本市に隣接するみなかみ町のJR上毛高原駅まで約80分、在来線ではJR上野駅から特急を乗り継いでJR沼田駅まで約140分、関越自動車道では練馬ICから沼田ICまで約90分と、首都圏はもとより全国からのアクセスが可能になっています。

沼田ICにつながる国道120号は「日本ロマンチック街道」として位置づけられ、沿線は雄大な自然が展開し、周辺各地の観光地をつないでいます。市内には、一般国道4路線、主要地方道2路線、一般県道12路線があり、JR沼田駅などの拠点を中心としたバス交通によって地域交通網が形成されています。



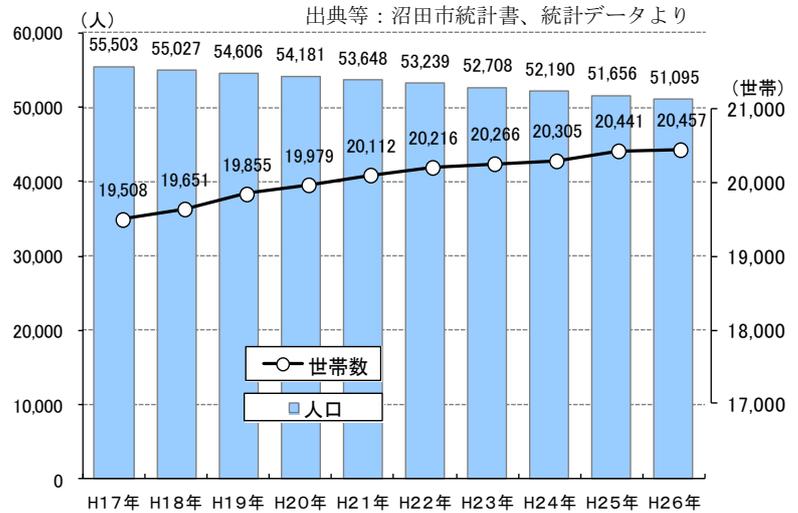
(2) 人口・世帯数の推移

平成26年(2014年)9月30日現在における本市の人口は51,095人で、合併時の平成17年(2005年)9月30日時点の55,503人から9年間で約8%減少しています。

同年の世帯数は20,457世帯で、平成17年時点の19,508世帯から約5%増加しています。

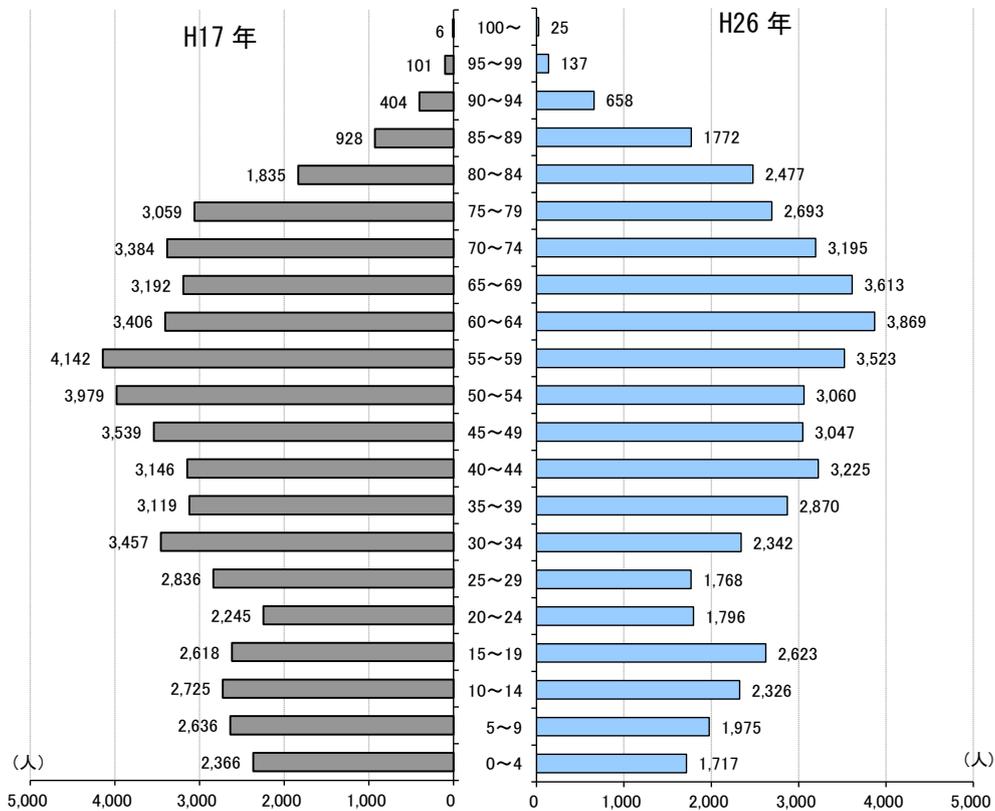
年齢3区分別人口の構成比は、平成26年における年少人口(0~14歳)は約12%、生産人口(15~64歳)は約57%、老年人口(65歳以上)は約30%となっており、平成17年時点から年少人口数は約22%、生産人口数は約13%減少し、老年人口数が約13%増加するなど、人口減少及び少子・高齢化が進行しています。

人口・世帯数の推移



年齢別人口の推移

(各年10月1日現在、年齢不詳分除く)



出典等：国勢調査、群馬県平成26年年齢別人口統計調査結果より

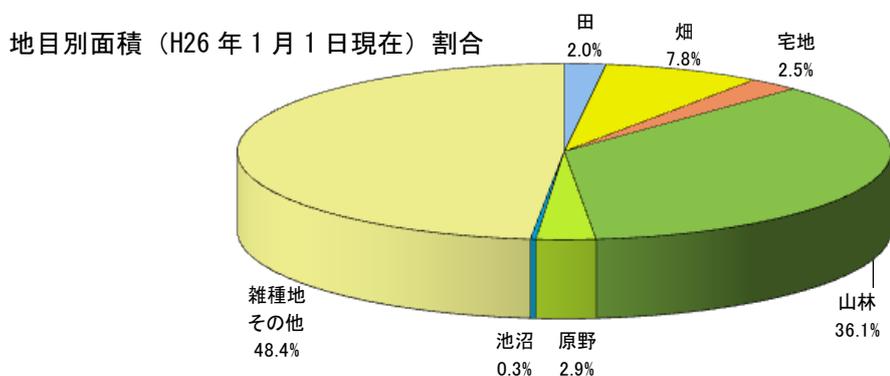
(3) 土地利用状況

本市の面積約44,346haの内訳は、平成26年(2014年)1月時点で田畑等の農地9.8%、宅地2.5%、山林・原野等87.6%となっています。平成20年(2008年)と比べ、田畑等農地が約3%減少し、宅地が約5%増えています。

平成22年(2010年)2月の農林業センサスでは、林野面積は34,031haで市域の約77%を占め、うち国有林が24,575ha(林野面積比72.2%)で市域の約55%を占めています。

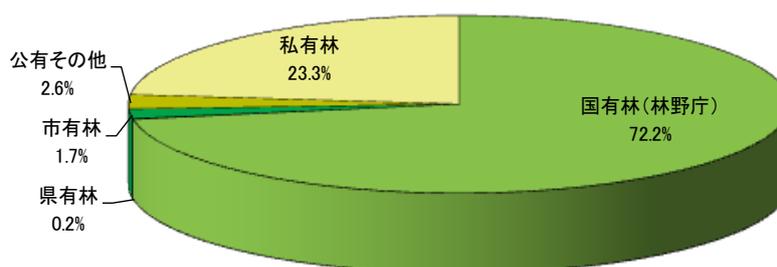
また、都市計画区域は平成24年(2012年)2月現在2,252ha、市域の5.1%で、そのうち用途地域が指定されている地域は814haで、都市計画区域の36.1%となっています。

なお、都市計画区域内の人口は全市民の約70%弱を占めています。



出典等: 沼田市統計書より

所有別林野面積 (H22年2月1日現在)



注) 森林面積は、森林計画による森林面積

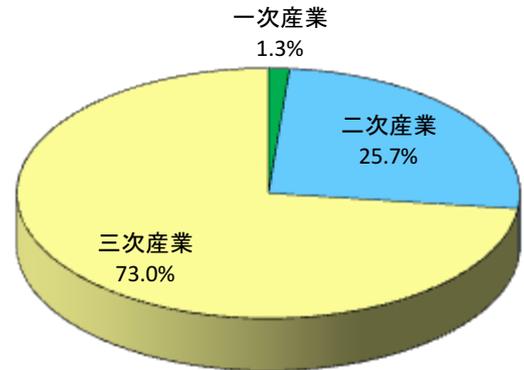
出典等: 関東農政局前橋地域センター、2010年世界農林業センサス(農山村地域調査)結果より

(4) 産業の状況

沼田市の産業別の事業所数及び就業者数は、平成24年(2012年)2月1日現在で、事業所割合が第1次産業約1%、第2次産業約22%、第3次産業約77%の構成となっています。また、就業者数も同様の傾向で、第1次産業1.3%、第2次産業25.7%、第三次産業73.0%の構成からなっています。

合併により農林水産業など第1次産業の就業者の割合が増加し、工業などの第2次産業の就業者の割合が減少しています。

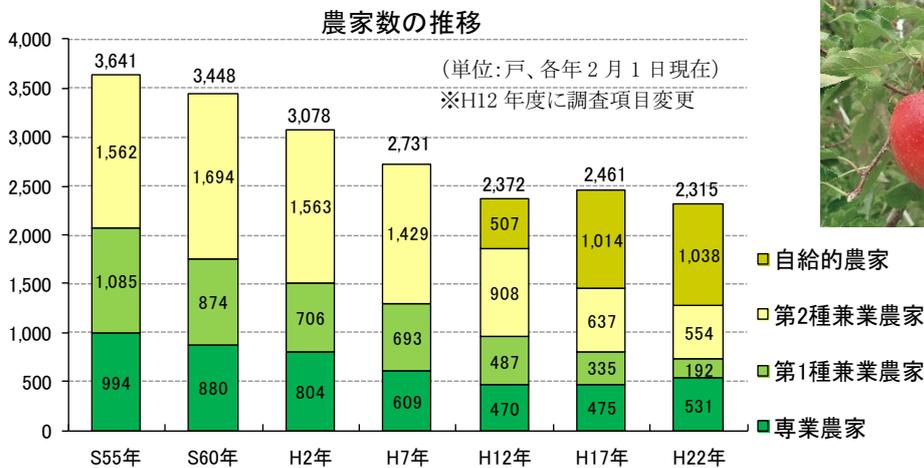
産業別就業者割合 (H24年2月1日現在)



出典等: 沼田市統計書、経済センサス-活動調査より

① 農業

農家数は専業農家*・兼業農家数*とも減少傾向となっています。平成22年(2010年)の農家数は20年前の平成2年(1990年)と比べ約25%、平成17年(2005年)比では約6%の減少となっています。また、経営耕地面積も減少しており、平成25年(2013年)では平成17年(2005年)比で約4%減少、水田が45ha、畑が87haの減少となっています。



出典等: 沼田市統計書、世界農林業センサスより

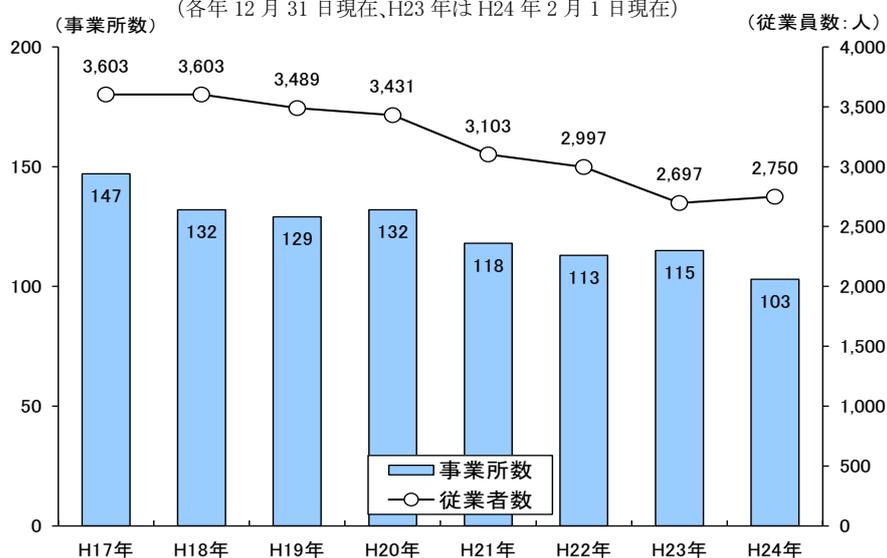
② 工業

工業系事業所数（従業員4人以上）は減少傾向となっており、平成17年（2005年）に比べ平成24年（2012年）では44事業所（約30%）が減少しました。従業員数も平成19年から減少傾向となっており、平成17年（2005年）に比べ平成24年（2012年）では約24%減少しました。

製造品出荷額も平成18・19年に1,000億円を超えましたが、その後減少し、平成24年（2012年）は約772億円と平成19年（2007年）比で約29%の減少となっています。

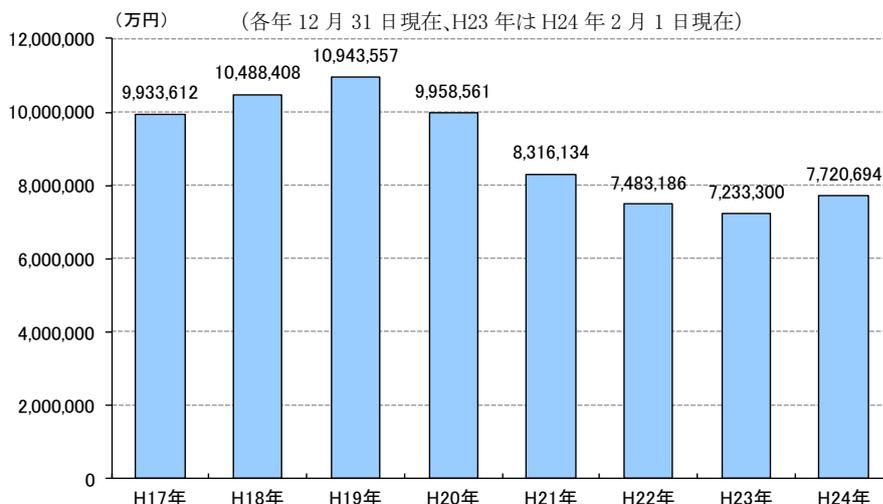
工業系事業所数・従業者数の推移（従業者4人以上事業所）

（各年12月31日現在、H23年はH24年2月1日現在）



製造品出荷額等の推移（従業者4人以上事業所）

（各年12月31日現在、H23年はH24年2月1日現在）



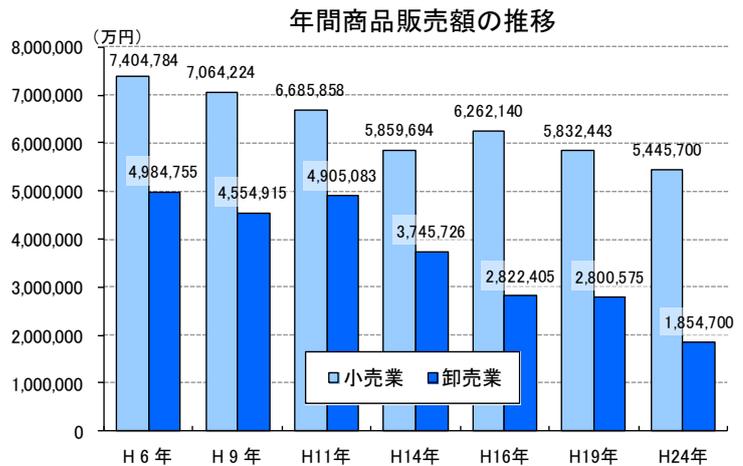
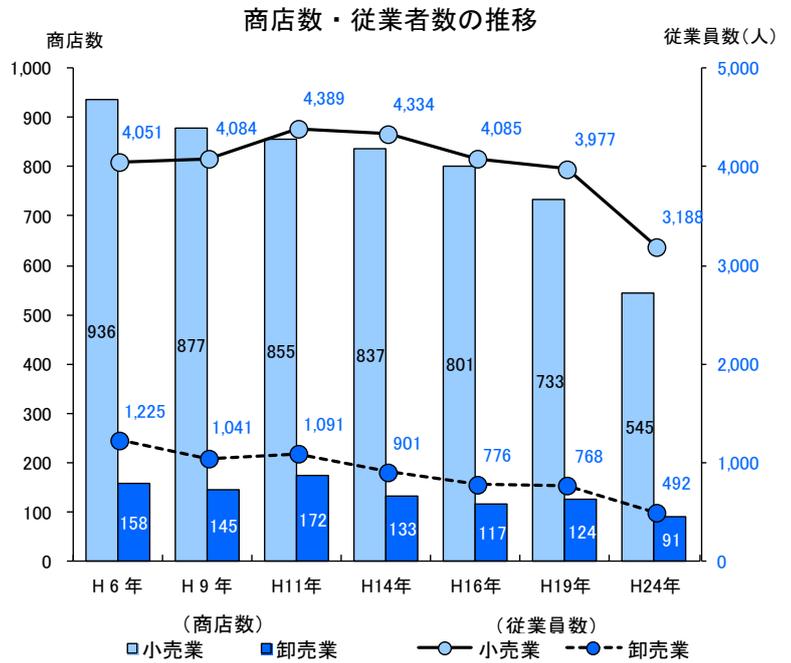
出典等：沼田市統計書、工業統計調査、経済センサス-活動調査より

③ 商業

国で3年毎に実施されてきた商業統計調査は、経済センサスの創設により平成21年調査は中止になり、平成24年経済センサス活動調査として公表されました。

平成11年(1999年)以降平成24年(2012年)までの小売業・卸売業ともに、商店数及び従業員数は減少しています。

また、年間商品販売額も小売業・卸売業ともに減少傾向にあり、特に卸売業の年間販売額の減少率が大きくなっています。



出典等：沼田市統計書、商業統計調査、経済センサス・活動調査より
(H11年は7月1日、H9年・14年・16年・19年は6月1日、H24年は2月1日現在)

④ 観光

観光入込客は、平成19年度(2007年度)以降全体として減少傾向となっていました。特に平成23年度(2011年度)は東日本大震災の影響も考えられ大きく減少しましたが、平成24年度は県内からの宿泊客を除き、県外や県内からの日帰り客、県外からの宿泊客ともに増加しています。

